

## 「異質のかけ算」

2026・6・24 重枝 一郎

「異質のかけ算」という記事を目にした。私は、いつも「異質のたし算」と言っているので興味をもった。

本校音楽科も、「響創コース」を作った際、「音楽×〇〇」というかけ算で、発信していたのを思い出す。

本校と教育連携協定を結んでいる「福岡 J アンクラス（女子プロサッカーリーグ W リーグ参入を目指しているサッカーチーム）」も、「スポーツを通じて、町・地域・クラブが共に成長するまち」として「宇美町×福岡 J アンクラス」として地域活性化プロジェクトに取り組んでいる。

この「異質のかけ算」の記事は、佐々木紀彦氏の「編集思考」という本の内容であった。表紙には、「モノがあふれた時代、ビジネスには編集が必要だ」と書いてある。「縦割り」が、はびこる世の中で、「横串」で物事をつなぐ「異質のかけ算」で新たなビジネスを生み出すのが「編集思考」であるという。本の中で「選ぶ・つなげる・届ける・深める」の4つのステップによって、ヒト・コト・モノの価値を高めることが「編集思考」と書いてある。私も、同じような考えをもつ。ただ、「横串」は「かけ算」なの？という感覚もある。

内容を読むと、閉塞感から抜け出せそうな、希望を持てる話に感じる。そして、この考え方は、今の世の中でやる気を喚起させる気がする。また、「はないち」の探究学習のヒントにもなると思った。

筑波大学の研究者の落合氏は、「経済×テクノロジー×文化」のトライアングルの「編集思考」を得意としている。私なんかは「???」となってしまう。3つを掛け合わせることの難しさをまず感じてしまうからであろう。そもそも、「かけ算」というのが難解さを感じさせられてしまう。だから、私は「たし算」と言うのかもしれない。「たし算」は気楽な感じがいい。受け入れる力があればできるから。私の経験では、「たし算」の相性が良ければ、「かけ算」したかのようなことになっていたりする。だから無理やり「かけ」なくても、とりあえず「たして」いくマインドでいい気がする。おそらく、生徒には合っていると思う。

古い話で、ソニーの盛田昭夫氏がウォークマンを作った時に、「すでにあるのものをくっつけただけで、それがイノベーションなんだ」と言っている。

もっと古い話で、阪急東宝グループの創業者（宝塚歌劇団も）、小林一三氏も「鉄道の各拠点の駅に百貨店をつくり、さらにその沿線に家を置いて住宅ビジネスも加え、さらに住宅ローンを開発して金融までやって、一大グループになった。イノベーターというのは、異業種をパッと見て、編集して、うまく届けていく人なんだ」と言っている。

私自身も、本校にお世話になる時、これまでの自分の経験にないことを「たし算」することが、この学校のこれまでをリスペクトすることになると考えていた。私の経験にない「女子校」「音楽科」「朝の礼拝」・・・たくさんある。でも、人は一人一人違うので、この学校で出会った人を「たし算」することが一番重要だった。この学校に関わる全ての人が、たし算・かけ算できるマインドを持てたらいいな。

学校という場所は、新しい時代の創造を目指す活力を養う場でなければならない。